

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

平城宮跡の北側に、二つの佐紀神社がある。一つは佐紀西町の神社で、もう一社は佐紀二条町の神社だ。御前池を挟んで東西に鎮座している。

年末に境内に砂を盛る「スナモチ」という行事があると聞いていたので、元日の午後、両社へ参った。

まず、佐紀西町の方へ。

参道から拝殿前に至る地面に山土が点々と撒いてある。ほとんどが既に踏まれているが、末社への道には、円錐形の土がまだ残っていた。直径十数メートルで高さは10センチくらいだろうか。塩を撒いた跡も残っている。縦横に小さな砂山が残っている境内に、三々五々人々がやってきて拝んでいく。

佐紀二条町の神社にも参った。ここでは参道入口の石鳥居に、簾のよくな注連縄がよく掛けている。大和郡山辺りでは

正月に砂を撒くのは、「ヅウガイ」と呼ばれている注連縄である。これをくぐると広い参道に、小さな砂山が無数に広がっていた。

神社境内だけではなく、奈良市二名三松では、庭に干支の牛を砂で描いている家があった。山土や川砂を線状に撒いて「砂道」を作り、正月さんの通り道とする所があちこちにある。三宅町但馬でかつて聞いた話では、氏神から各家に川砂が線状にしかれ、スナマキ、道しるべと呼ばれていた。

仕事始めの4日、写真家の志岐利恵子さんに案内してもらって、奈良市和田の太安万侶墓に近い大北昌宏さんのお宅で正月行事の話をお聞きし

佐紀神社の「スナモチ」と田原大北家の「イタダキの膳」



佐紀のスナモチ 和田の正月

た。

大北家では12月29日に餅つきをする。竈のオガ

輪の注連縄を添え、お鏡

をオマス(供える)。そ

ばには栗の枝の両端の皮

をむいた中黒の箸を置く。畳炉裏があつた時に

12個並べる(うるう年は

13個)。

元旦に揃って雑煮を祝

うまえに、家族が一人ず

つ、三方に鏡餅などを

月さん尼星を三つ乗せ、周

りに月の餅を

こうして各地で新しい

一年が始まった。1月7

日、新型コロナウイルス

の「第3波」で首都圏で

再び緊急事態宣言が発令

されたが、マスクを外し

て、いろいろな話が聞け

る日が来るのを、自ら

ながら待ち望んでいる。